

にしっこ 西っ子のみなさんへ 97 6月11日

今日、6月11日は「傘の日」です。

今年は、梅雨入りがとても早いですが、例年は6月11日頃に梅雨入りすることから、暦でいう「入梅」の日が「傘の日」とされました。

私たちは、「傘」というと雨傘を意味し、雨をよける道具という認識が強いですが、もともとは「直射日光をさける」日傘として作られました。そして、それは権力の象徴として使われたようです。

傘を意味する英語には、「umbrella」と「parasol」があります。「umbrella」が雨傘で、「parasol」が日傘と私は習ってきました。しかし、「umbrella」はラテン語の「umbra」が語源で、日本語でいうところの「影」を意味することから、影をつくるもの、つまり、「umbrella」も日傘を意味することになります。

傘の原型は、今から4000年前の古代エジプトやギリシャ、ペルシャの壁画などに描かれています。高貴な人に日光が当たらないように使いの者が傘を持って影を作ったのです。

日本の歴史上、傘が登場する最も古い文献は「日本書紀」です。日本書紀には、百済の王から絹張りの傘が贈られたことが記されています。つまり、これは朝廷への貢ぎ物＝権力を象徴する道具として贈ったことがわかります。

日本で傘が雨具として普及するようになったのは江戸時代のことです。時代劇を見ていると、雨の中を番傘を差して歩くシーンや、女の人がちょっとおしゃれな蛇の目傘をさしている場面がでています。これらは、ふつう「和傘」と呼んでおり、岐阜の名産の1つです。



現在、私たちがつかっている雨傘は、明治時代に海外から輸入されていた「洋傘」、別名「コウモリ傘」と呼ばれるものです。現在の洋傘は素材がポリエステル、骨がカーボン繊維等になり、とても軽く作られるようになりました。とてもありがたいことですね。

傘を差すと見通しが悪くなりますが、皆さんが差してくる傘を見ていると、一部が透明になっており、透けて前方が見えるようになっている傘を使っている人がいます。安全のためには、このような傘は良いなあと思っています。

日本人は、世界一傘が好きな民族なんだそうです。世界の主流は傘を持たず、雨の時は外に出ないとか、走るとか、レインコートを使用するのだそうです。

日本の警察官や自衛官も勤務中に傘は使いません。これら制服を着てお仕事をする人たちは、支給されたものしか身に着けてはいけないというきまりがあり、傘は支給されていないからだそうです。だから、雨の日も帽子をかぶりレインコートを着て立ってみえるのですね。

登下校時に日傘を使っている人がいます。これから暑くなるので、熱中症予防に傘を使うのはありだと思います。その時は使い方に注意してくださいね。